

■肢体不自由のある子どもたち・知的障害のある子どもたちへの実践事例

タブレット端末を活用した読書タイム

東京都立墨東特別支援学校

あらた
新田 真

はじめに

東京都立墨東特別支援学校は、肢体不自由教育部門（東部療育センター内分教室を含む）・病弱教育部門（分教室・病院訪問）の併置校で、小学部から高等部の子どもたちが在籍する特別支援学校です。

創立34年目を迎える本校の読書環境は、学校図書館と1、2階の渡り廊下にある図書コーナーの計3か所です。

「子どもたちが移動中やちょっとした時間に本に触れることができる」ことをスローガンに掲げ、学校介護職員や絵本の読み聞かせの会「お話の会 うさぎ」の協力のもと、季節ごとの飾りやおすめの図書紹介等のレイアウトを適宜変更することで、子どもたちも、大人も引き込まれる場所となっています。

また、マルチメディアDAISY図書は、学校用のタブレット端末や図書館内にあるノートパソコンで見ることができます。

これまでの取り組み

本校では、2014年度よりタブレット

端末を活用したマルチメディアDAISY図書を導入し、今年度で7年目になります。導入当初に比べ、校内のタブレット端末が増加し、多くの教職員が容易に使用できる環境が整ってきました。同時に、マルチメディアDAISY図書を学習や読書活動などの場面で活用する教職員も増えてきました。

<活用事例①>

中学部1年生 男子Aさん

（自立活動を主とする教育課程）

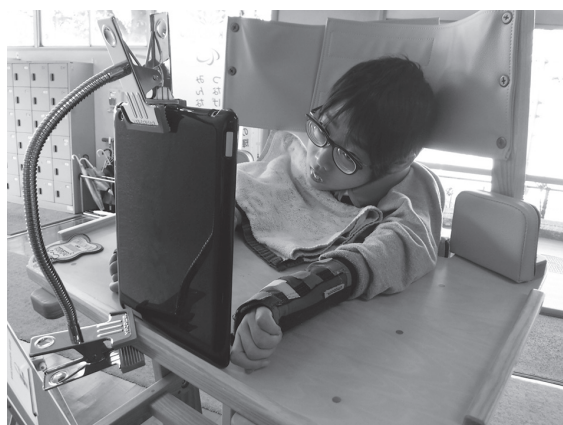


Aさんは、自立活動を主とする教育課程に在籍する中学部1年生です。脳性まひを伴う低緊張で、発語はありませんが、発声や表情、身体や手足を伸展させて気持ちを表現することができます。

ます。絵本や映像を見ることが大好きで、教職員が絵本やタブレット端末を手にしてしまうと、いつも期待感に満ちあふれた表情で手足を伸ばし「見せて！！」と気持ちを伝えてきます。

Aさんの自立活動の一つに、プロンボード（立位保持装置）を使用した立位姿勢があり、毎日取り組んでいます。

プロンボードで過ごす時間は、教職員と絵本の読み聞かせをする中で注視したり、校内を散歩したりと、立位姿勢でも顔をあげて頭部を姿勢保持できるように、Aさんの興味を引き出す学習内容を工夫しています。



友だちを待っている間もマルチメディアDAISY図書を見ているAさん

中学部入学当初、プロンボードに乗る時間は30分程度でしたが、Aさんの体力も向上し50分程度立つことができるようになりました。また、興味のあることは、非常に楽しむことができるようになったことで、教員との個別の学習だけではなく、Aさん一人でも楽

しんで学習できるものはないかと思案していた時に、マルチメディアDAISY図書の活用を思いつき、タブレット端末をプロンボードのテーブルに設置してみました。

タブレットを起動して紙芝居の物語をスタートさせると、Aさんは大喜びで声を出し、顔をしっかりとあげて正面を向き映像を見始めました。絵本とタブレット端末が大好きなAさんにとっては、まさに至福の時の幕開けだったのかもしれませんが。今では、個別の学習と併用しながらマルチメディアDAISY図書を自立活動に取り入れています。

Aさんの日課は、プロンボードとタブレット端末、そしてマルチメディアDAISY図書を活用し「一人でも楽しむことができる」より一層充実した時間になりました。

<活用事例②>

中学部1年生 男子Bさん

（自立活動を主とする教育課程）



Bさんは、自立活動を主とする教育課程に在籍する中学部1年生です。医療的なケアが必要な生徒で、昼食は胃ろうからの栄養注入を1時間ほどかけて行っています。感情表現がとても豊かで、「おもしろい！ 楽しい！」と感じると、満面の笑みで気持ちを表現しています。オノマトペや繰り返しのことばが好きで、楽しい気持ちを表現しているBさんを見ると、見ている私たちまで楽しい気分になります。

Bさんの読書タイムは、自立活動の学習場面や給食前後の時間に設定しています。

最近の自立活動の学習では、ベンチで座位の姿勢をとりながら、タブレット端末のマルチメディアDAISY図書を活用して楽しんでいます。

活用理由は、以下の3つです。

- ① 1台のタブレットに多くの蔵書が入っているため、持ち運びが便利。
- ② 本人の姿勢に合わせて、見る角度、距離などを容易に調節が可能。
- ③ いつでも「少し」の時間に観賞が可能。

ベンチでの座位の時間にタブレット端末を使用してからは、画面を注視することが増え、上肢から頭部にかけての姿勢の保持が向上しました。

また、紙芝居『コッケモーモー!』の場面では、大きな雄鶏の絵に視線が釘付けで「モーモー」や「メーメー」の鳴き声を聞くと、声に気づいて、画

面に手を伸ばすこともありました。



ベンチに座り、紙芝居『コッケモーモー!』を見ているBさん

給食前後の時間には、担任以外の教職員がBさんに付き添うことも多く、タブレット端末に入ったマルチメディアDAISY図書をツールに会話が生まれたり、一緒に絵本の内容を共感して楽しんだり、他者とのかかわりを拡げてくれる道具としても役立っています。

Bさんにとって、タブレット端末のマルチメディアDAISY図書は、個別の学習場面に必要な教材であると同時に、他者とのコミュニケーションを図る重要なアイテムとしても機能していることがわかりました。

<活用事例③>

中学部1年生 男子Cさん

(知的障害を併せ有する生徒の教育課程)

Cさんは、学校以外の場面で、マルチメディアDAISY図書をよく活用しています。

タブレット端末に本をインストールして、いつでも読めるようにしています。

Cさんに最近読んだ本とそれらを読んだ感想を聞いてみると、

『『ひろしまの ピカ』は怖かったよ。』

『『はしれまちの電車』はよく見たかな。』

『『介助犬ターシャ』はまあまあだったよ。』

『『さかさ町』はおもしろかったよ。』

と、たくさんの本と読んだ感想を話します。Cさんが本を読む場面は、車での移動中、病院の待ち時間など、ちょっとした空き時間が多いそうです。少々残念なことは、「タブレットの容量が少ないため、たくさん本を一度にインストールすることができないこと」と話していました。

最後に、「マンガもあるといいな!」と希望を話していました。



『さかさ町』Cさんのおすすめ

おわりに

今回は中学部1年生のケースを中心に、タブレット端末を使用したマルチメディアDAISY図書の活用事例を紹介しました。

主教材としても副教材としても、手軽に使用できる魅力あるデジタル教材であることを改めて感じました。

また、「少しの時間」や「ちょっとした空き時間」に活用している子どもの生の声を聞くことができたことで、もっと多くの子どもたちにも、マルチメディアDAISY図書を活用してほしいと強く思いました。

最後に、GIGAスクール構想の実現を目指し、教育現場ではICT環境がスピード感をもって整備されています。数年前まで校内に数台しかなかったタブレット端末も、一人1台端末が配備される日は、目の前に迫っています。

マルチメディアDAISY図書は、子どもたち一人ひとりの実態に合わせた活用ができます。

今後も、マルチメディアDAISY図書を「いつでも」「だれでも」「手軽に」利用できるように、校内の図書環境を整備するとともに、さまざまな活用方法を周知していきたいです。